

(仮称)学び・交流プラザ整備基本構想(案)市民説明会 会議録(概要)

1. 日時 平成22年8月13日(金) 19:00~20:30

2. 場所 新南陽公民館1階 集会室

3. 市側出席者

(市長)島津幸男、(教育長)坂本昌穂、(教育部長)青木龍一、(次長)松村悟、
(新南陽総合支所長)大野貞基、(次長)三浦和之、
(産業観光部次長)上杉方治、(都市建設部次長)河島和良、
(文化スポーツ課長)福谷進、(中央図書館長)沖宏之、(新南陽図書館長)井上博行、
(中央公民館長)山本真也、(新南陽公民館長)福谷勝、
(都市政策課都市政策係長)有馬善己、(防災危機管理課防災危機管理担当係長)高木一義、
(生涯学習課長)宮本俊宏、(生涯学習課生涯学習担当係長)中村悟

4. 出席市民 約20名

5. 次第

(1)開会

(2)市長あいさつ

(3)出席職員の紹介

……市長は他の公務のため退席……

(4)基本構想案【概要版】の説明

(5)質疑応答等

(6)教育長あいさつ

(7)閉会

6. 配布資料

(仮称)学び・交流プラザ整備基本構想案【概要版】

説明会の要旨

1. 市長あいさつ

盆の最中のお忙しい時にお集まりいただき、心からお礼申し上げたい。

平成24年度から、施設の解体・建設と、一気に整備工事を進める予定だ。

今後50年、100年と後生に残るような、りっぱな施設を作るといふ、強い気持ちを持って取り組んでいきたい。周南市には、地場産の木や石も揃っている。市民の皆さんと行政が一体となり、知恵を出して、周南市全体の生涯学習のメッカとなるような、心のこもったいいものを作っていきたいと思う。

施設の解体・建設の間、みなさんにはご迷惑をかけるがご協力をいただきたい。

本日は、意見をどんどん出してほしい。

2. 質問・意見の概要

この事業は、これまで新南陽地区で長年期待されてきた事業であり、本日の市民説明会開催は感無量である。概算事業費が30億円とのことだが、もっと経費が必要ではないか。

市側 昨年度、本事業の基本調査を実施するとともに、建築課とも協議して、概算事業費を30億円と見込んでいる。今後の設計で詳細に検討する中で延床面積等が変更し、事業費が変動することもありうる。

複合施設ということだが、一つのビルの中に、これまでの機能を全て集中させるのか。

市側 今後の設計の中で詳細に検討していくので、現段階ではお答えできない。

図書館や体育館等は改修程度に留めて、他の機能を集中的に投資して整備する方がいい。事業費をもっと増やし、駐車場を拡充して、合併のシンボル・記念事業となるような立派な設備の整ったものを作ってほしい。

施設の予約をインターネット等からできるようなシステムを取り入れられないか。

市側 先進地の事例を参考にして、今後検討したい。

市の生涯学習拠点施設なのに、旧来施設の建替えに過ぎない事業だと思う。

現在の徳山の図書館は、中央図書館と言っているが、駐車場が不足し、使い勝手が悪い。また、本市の人口規模から考えると、市の中央図書館には70万冊程度が必要。今回の整備事業を機会に、地域図書館でなく、15万都市にふさわしい中央図書館を、学び・交流プラザに整備すべきだ。

市側 学び・交流プラザは、地域施設としての性格と共に、本市の生涯学習の頭脳部分として位置付けることを考えている。新南陽地区の皆さんにとって使い勝手のいい規模の地域施設にすると共に、充実発展させるべきものは充実させていきたい。皆さんのご提言を取り入れて、特徴を付加していきたい。地域図書館と、市の中央図書館のあり方については今後とも検討したい。

景観にいい街を作るとあるが、景観条例を制定し、高さ制限などを設定するのか。

市側 現在、都市政策課が所管となって各地区でワークショップ等を実施し、市民の皆さんのご協力をいただきながら景観計画策定に向けて取り組んでいるところである。

施設のデザインや景観に十分配慮して、この地域にマッチした施設を整備したい。

図書館の来館者数や、蔵書数、IT用パソコンの台数等、具体的に示すべきだ。

新南陽地区住民のための施設と、市全体の施設と、話が混在しているが、生涯学習センターという、市全体としての機能をどうして新南陽地区に移すのか疑問だ。中心となる機能を徳山から新南陽に移すのは、距離が遠くなり不便になる。みんなが使いやすい場所に整備すべきでないか。

図書館に関しても、現在の中央図書館には駐車場が無いから新南陽に移すという意見もあるが、短絡的な考え方だ。駐車場の問題は、市全体の問題、都市計画上の問題であり、この施設だけの問題ではない。

市側 学び・交流プラザは、市の生涯学習センターを中核とする施設であるが、この事業は21のリーディングプロジェクトに基づいたものであり、また、まちづくり総合計画後期基本計画において、本市の重点推進プロジェクトとして位置づけている事業である。

また、地域の施設と、市全体の生涯学習センターという、2面性があると考えている。

生涯学習センターを新南陽地区に作ることは決定しているのか。変更できないのか。市民説明会やパブリックコメントというのは市民の声を聞く場ではないのか。

市側 8月1日から今月末まで、市民の皆さんからご意見をお聞きしている。寄せられた意見を受けて、総合調整しながら内部で検討し、皆様にもご提示し、議会とも協議しながら成案にする予定である。

基本的な骨格として、生涯学習センターの拠点をこちらに移すという枠組みは、ご理解いただきたいと考えている。

ただし、すべての生涯学習の事業を、学び・交流プラザで行うということではない。各地域では公民館を中心に生涯学習活動がなされ、情報提供や相談業務等、各地域で必要な事業が今までどおり実施されていくものである。ご心配されないように。

何事も、とかく最初は波風立てないような策で行政は出てこられる。中心が根を張ってくと、そこに吸い寄せられるように全てが集まってくるような状況が見られるので心配している。念頭においてほしい。

この事業は、新南陽地域で待ちに待った事業である。旧新南陽の市民は非常に期待している。この事業の性格を再度確認したい。

市側 この事業は「21のリーディングプロジェクト」の一つとして位置付けられたものであり、何より本市の「まちづくり総合計画後期基本計画」に位置づけられた事業である。

防災活動拠点における「連携」とは、どんなことを考えているのか。

市側 大規模災害時には、永源山公園は防災活動の集結地になると思われる。また、救護や医療を行う市民病院も近隣にある。学び・交流プラザとの近接性を活かし、災害

対策を進めていきたい。

災害に関しては、特に水害が懸念される。永源山公園と、学び・交流プラザの動線を確保することが重要だ。

できるだけ一つの建物にして、駐車場やイベント広場を確保したほうがいいと思う。

教育行政の拠点として、市の教育委員会を移すことを検討してはどうか。

市側 ご提案として受け止めさせていただきたい。重要な問題であり、ご意見は預からしめていただきたい。

この案は、現状施設を統合して、生涯学習センターがちょっと入るという感がある。文化ホールは、現在より少し狭くなるようだが、ユニバーサルデザインに対応出来ないのではないか。

市側 現状程度の規模を想定している。300～400席が地域住民の使い勝手がいいと考えている。他施設のホールと規模の差別化を図りたい。

文化ホールは、500席程度が一番使いやすいと考えているが、市内にはこの規模の施設が無い。500席規模で整備をお願いしたい。

ハコ物は大きい方が良いというが、建設後の維持費を考慮すべき。地域住民は大きいものがいいと言うが、行政はなんでもかんでも言われたことをするのではなく、将来的な見通しを持って、しっかり舵取りをしてほしい。

市側 必要な施設や規模をしっかりと検討し、省力化や機能の兼用等も十分勘案して、みなさんに喜んでもらえる適切な施設を整備したい。

現状の武道館は非常に狭い。現状と変わらない規模では公式試合もできず、子どものためにもよくない。富田中学校の武道場も狭いと思われる。柔道の公式試合(畳の専用ス

ペース)が2面とれる施設がほしい。

市側 畳の専用スペースが必要だとは考えている。広さ等は、今後関係団体と個別に協議させていただきたい。

複合施設は、各施設担当の職員が別々で、入り口が別々になるように。新南陽ふれあいセンターのような「ごちゃまぜ施設」にならないようにお願いしたい。

「生涯現役社会づくり」という事業がある。生涯学習と別物だが、結果は同じものであり、これは縦割り行政による弊害だと思う。こうした弊害を解消し、別々の事業を統合して取り組んでほしい。

3. 教育長 あいさつ

本日は、さまざまなご意見をいただくことができた。

私ども職員全員が、できるだけいいもの、みなさんに満足されるものを作りたいと思っている。

いただいた意見は、庁内に持ち帰り検討したい。今後ともよろしくお願いしたい。